

あま み きょう くん ことわざ 奄美の教訓（諺）

奄美に昔から伝わる島口の教訓を紹介します。皆さんはいくつ知っていますか。

若しやん時ぬ難儀や
買ってでんすれい

わあしやんときぬなんぎや こうてでんすれい

【解釈】

若いときの難儀や苦労は将来の大成のためによい経験になる。難儀な仕事でも進んで引き受けてやるようにしなければならない。

（日ごろの心がけ・向上心）



下手からど習て優れ者なゆる
及ばんぬと思て思案すんな

へたからどなろてすぐれものなゆる
およばぬとおもてしあんすんな

【解釈】

はじめから上手なひとはいない。一生懸命努力して成長するのである。下手だからといって嘆いたり悩んだりしてはいけないのである。

（努力の積み重ね）



親兄弟ぬかなしや朝夕うち笑うて
一人助け助け浮き世渡ら

うやきょうでのかなしやあさゆうらわろて
きゅうりたすけたすけうきよわたら

【解釈】

親兄弟は愛情があつて親しい。朝夕和やかで楽しいものだ。だから困ったときに助け合つてこの世を渡っていかなければならない。

（家族団らん）



健康ど宝

どくさどったから

【解釈】

健康こそ幸福の源だ。病気をしてはじめて健康の有りがたさがしみじみわかる。健康保持と増進は日頃の心がけが大事である。

（健康は幸福の源）



奄美に伝わる教訓(諺)



話そうしまのこぼ 語り継ごう奄美の文化

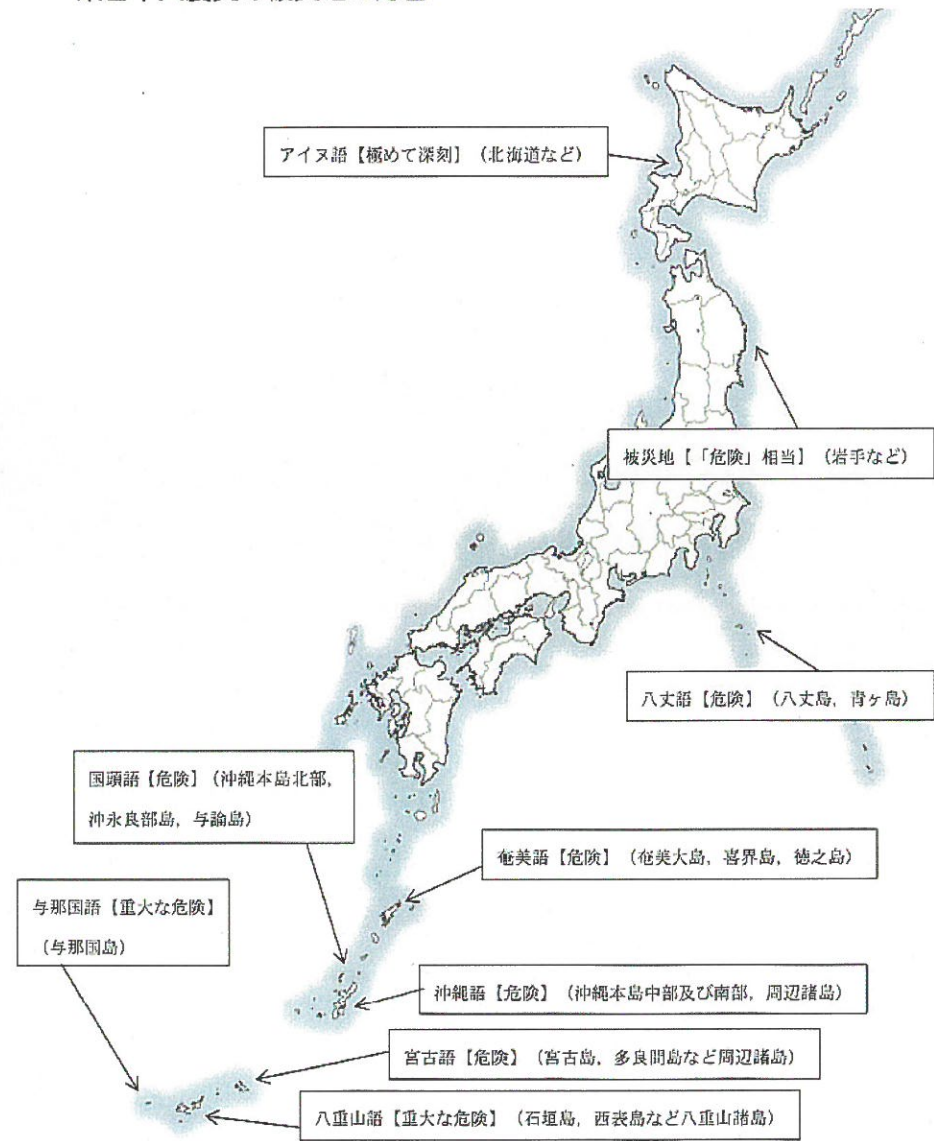
大島地区文化協会連絡協議会

(事務局：鹿児島県大島支庁総務企画課 〒894-8501 奄美市名瀬永田町17番3号 TEL 0997-57-7218)

<http://www.pref.kagoshima.jp/chiiki/oshima/kyoiku/oosimatikuhougennohi.html>

ユネスコ（国連教育科学文化機関）は平成21年2月に、日本国内の8つの言語・方言が消滅の危機にあるものと認定していますが、その中に奄美の方言も含まれています。これらの言語・方言の消滅の危機を回避し、保存、継承の道を皆で考えてもらうため、平成28年11月に「危機的な状況にある言語・方言サミット」を与論町で開催しました。

“Atlas of the World’s Languages in Danger”（UNESCO2009）で
消滅の危機にあるとされた日本国内の言語・方言 及び
東日本大震災の被災地の方言



大島地区文化協会連絡協議会では、近年、衰退しつつある奄美の方言を保存・伝承していくことを目的に、平成19年度から2月18日を大島地区の「方言の日」と定めています。大島地区の各市町村では方言に関するイベントや島口カレンダーの作成、学校ではカルタ大会や劇を島口（方言）で行うなどの活動を行っています。奄美の島口を将来に残していくため、学校や家でも島口を使ってみましょう。